



メッセージありがとうございます！ ～2年生「立志歩行」～

「あっ！こんなところに！」

伊良湖岬小学校のそばの正福寺の掲示板に、生徒たちを励ます、言葉が書いてありました。【目標を持って、目標から逃げず、自分を信じて、立志歩行ガンバレ】生徒たちに向けたメッセージを見て、とても心が温くなりました。本当にありがとうございます。

また、多くの保護者や地域の方々が、ボランティアに立ったり、励ましの声をかけ応援してくれたりしました。昼食を提供していただいた飲食店の皆様にも感謝です。

生徒の感想

私は山や海、菜の花など、田原市ならではの自然を見ながら歩くことができたのが一番の思い出に残っています。田原市に住んでいても知らなかった場所があったし、改めて田原市の自然の豊かさを感じました。特に海では、太平洋と三河湾を両方見て、太陽の光によってきらきらと輝いている水やどこまでも続きそうな水平線など、「自然が豊かな田原市だからこそ」というところがとても多かったです。だけど、伊良湖(日出の石門)の険しい坂や、長い距離を歩くということもあり、途中で足が止まりそうになってしまう時や、無言で下を向きながら歩いてしまう時も多くありました。そんな時に、友達と励ましあったり、歌を歌ったり、CPやTPのときに、地域の方や先生など、立志歩行に関わってくださっている方々に、「がんばれ～」「あと、〇kmでゴールだよ！」など、明るく励ましの言葉をいただいたおかげで最後まで、あきらめずに歩ききることができました。初めて26kmという長くて厳しい道のりを歩いて、辛いこともあったけれど、友達や周りの方々の良さを、いつも以上に感じる事ができた立志歩行になりました。これからは、立志歩行で学んだことを活かし、自分も周りも笑顔の日常を作っていきたいです。

生徒たちに素晴らしい思い出の1ページができました。今後もこの立志歩行が続くことと、できることなら、伊良湖トライアスロンのように地域を盛り上げるイベントとなるとよいなと願っています。



【編集後記】

卒業式と立志歩行も終わり、福江中学校の令和5年度が閉じようとしています。福江中学校はみんなで作る学校です。生徒・保護者・教員・地域の方々からのご意見を参考に来年度の学校経営について計画していきたいと思います。どうぞ、これからもよろしくお願いします！



令和六年三月六日

田原市立福江中学校長

矢野正明

三月は、渥美半島が一年のうちで最も輝く季節です。菜の花と河津櫻が咲き誇り、つるし飾りが街を彩るこの良き日、福江中学校第七十七回卒業生として巣立っていく百二十三名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの門出に次の言葉を送ります。「未来は、今の自分が決める」今、私は目の前のことをがんばっているかな。そう自分自身に問いかけてみてください。皆さんは、若く、可能性はいくらでもあります。これから、なりたいと思えばどんな自分にもなることができます。皆さんなら、きっと大丈夫。力いっぱい、自分らしく、前を向いて進んでください。疲れたときは、苦しくなったときは、休んでもいいし、一歩下がっても構いません。ここにいる友達、後輩、先生、保護者の皆さん、地域の方々、みんなが皆さんを応援しています。卒業しても、この福江中学校の生徒であったという矜持をもち、共に励まし合える仲間であってください。皆さんの輝かしい前途を祝して、式辞といたします。



今、目の前にあることに全力を尽くそう



第205号
令和6年3月15日
発行 福江中学校
電話 32-0112
FAX 32-2105



一年間ありがとうございました！～学校評価～

【生徒の自己評価】

◎学級は温かく、学校は楽しい。安心して生活ができる。(90%以上の生徒が高評価)※1

◎学校行事、部活動に意欲的に真剣に取り組んだ。(いずれも95%高評価)

◎交通ルールやマナーを守っている(いずれも95%以上が高評価)

▲振り返って、次に生かすことが苦手(苦手な生徒が1学級で5人程度いる)

▲「たより」を家に届けることが難しい(親に渡せていない生徒がクラスで10人ほどいる)

▲約半数の生徒が、自宅で十分な学習ができていないと回答。

▲クラスで5名程度が、授業がよくわからないと感じている。

【保護者からの評価】

◎ルールを守る生活、部活動への取り組み、思いやりに対して90%以上が高評価。

▲子供たちが、いじめ等で悩んでおり、学校が楽しくないのでは…と感じている保護者が5人に1人程度いる。※1

▲自ら進んで、挨拶(20%程度低評価)をしたり学習したり(約半数が低評価)

と言うことに物足りなさを感じている保護者が多い。※2

▲睡眠や食事が十分にとれていない生徒が15%程度いる。※3

【教員による評価】

◎行事・生徒会・部活動・ボランティアに真剣に取り組むことができている(約90%の教員)。

▲長期、いじめに悩む生徒がいる(約半数の教員) ▲交通安全を心配している(約半数の教員)

▲85%の教員が、自宅学習が不十分であると評価している。



R6年度の学校経営について

◆学校では、生徒等へのアンケートからいじめがあることを認識しているが、学校評価の生徒アンケートでは、学校が楽しいと答えている生徒が多い。つらいことが話せない生徒がいることが考えられる。学校としては、家庭との情報交換を密にし、生徒の実態把握に心掛けていきたい。また、福中を良くするためには「温かい学校を」と考える保護者・生徒が最も多い(約95%)。引き続き温かい学校作りを学校経営の重点に据えていきたい。※1より

◆やったほうがよいこと(あいさつ)、がんばれるとよいこと(学習)に向かう自主性に課題が見られる。自らどう生きるか、どんな人間になるのか、自己教育力を高める必要がある。※2より

◆睡眠不足を訴える生徒が多い。R6は学校保健の重点的な取り組みとして「睡眠」を取り上げていきたい。※3より

◆アクティブラーニングの効果、生徒の安全への学校の取り組み、学校・学級への誇りについては、「よくわからない」という回答が多い。保護者会で報せたり、たよりなどで情宣したりする必要がある。

◆教員は、各種たよりを家の人に読んでもらうように呼び掛けているが、生徒の結果を見ると届いていないケースが見受けられる。学校からの配付物をきちんと家で見せる習慣を身に付けさせたい。

学校評価については、今後の学校経営に生かしていきます。ご協力ありがとうございました！なお、裏面には、保護者の方からのご意見に関する学校のコメントが載せてあります。ぜひ、一度お読みください。

学校評価アンケート保護者の方からのご意見について

多くのご意見いただきありがとうございます。ご意見とそれに対する学校の考え方を記載させていただきました。我々教職員とともに、生徒の学び・成長に関わっていただく保護者の方の考え方の参考になれば幸いです。

学力や学習意欲の向上を図ってほしい。そのために、1 クラスの人数を減らす、進学クラスを作る、授業規律を乱す生徒は進学できないようにする、中間テストの実施、テスト時の各教科の最高得点等の公表、宿題の提供、50 分授業の復活、AT の時間の充実、基礎学力の重視等・・・が考えられるのでは。

【学力について】

2020 年 3 月に文部科学省から公示された学習指導要領は「生きる力」をはぐくむという理念を実現するために改定されました。人工知能の普及やインターネットの生活への浸透により、社会や生活が大きく変わると予想される時代に変化を前向きに受け止め、人生をより豊かにしていくためにどうすべきか主体的に考え出すことができる力が「生きる力」です。これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現して欲しい。そして明るい未来を、ともに創っていきたい。そうした願いが 2020 年度から始まった新学習指導要領にはこめられています。

新学習指導要領では、生きる力を「知・徳・体のバランスのとれた力のこと」と表現しています。福江中学校でも生徒の「生きる力」の育成を目指して教育活動を展開しています。

①知＝確かな学力

基礎、基本を確実に身につけ、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力

②徳＝豊かな人間性

自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性

③体＝健康・体力

たくましく生きるため健康で過ごすことや体力をつけることなど

【学級編成について】

1 クラスの人数については、法律等で定められておりますし、配当される教員の人数も限られているので、減らすことは難しい状況です。教員による授業の工夫や生徒自身の努力にゆだねられるところが多いのが現状です。「全員が参加できる」「分かる楽しい」授業を先生たちには心掛けてもらっています。

また、中学校は小学校と同様に進路別ではなく、等質のクラス編成をしています。まだ、心に不安定な部分も多く、人として自立しきれていない年代であるので、進学クラス等を作ることにより差別化・区別化することの弊害の方が多くとえています。クラスにいる様々な人と出会うことで、豊かな人間性を身に付けていって欲しいと願っています。その中で、出てくるいろいろな悩みは、子供たちを成長させることにもなります。義務教育を終え、自己選択しながら、社会へ出ていく子供たちが、どんな環境でも誰とでもやっていける強さ・しなやかさ・優しさをもった「自立した人」として成長してってくれることを願っています。

【定期テストについて】

福江中学校としては、部活動が縮小していつている現状を踏まえ、今までのようにテスト週間に集中して勉強するのではなく、日々の積み重ねの学習が大切だと考えています。日々の学習の充実のために、教科によっては単元テストや小テストを行っています。単元テストや小テストはテスト範囲が狭いので学習に取り組みやすく、成果が出ることによって継続的な学習意欲にもつながると考えています。保護者の皆様におかれましても、中間・期末を重視していた今までのスタイルから、日々の学習と、テスト週間の学習、どちらも大切だなというように考え方を変換していただけるとありがたいです。なお、評価については、定期テストの点数のみでなく、単元テスト、小テスト、日々の授業で使っているワークシート等の内容からも各観点を見取って総合的に判断しています。

また、テストの最高点の公表については、一部の生徒の意欲の向上になることが予想されますが、本校では、テストは人との比較ではなく、個人の習熟度を判断するものと言う考え方から、公表する予定はありません。もし、仲良しでライバルのような友達がいれば、お互いでテスト結果を見せ合い切磋琢磨するという方法もあるかと思ひます。

【宿題について】

効果があまり見られず、答えを写して出す、内容が学力と合わないなど、その弊害の方が目立ってきたため、一律に毎日提出を求めている課題を行わなくなりました。ですので、今は各教科の担当から適宜、宿題が提供されている状況です。「課題がないと勉強しない」という生徒は多いかと思ひます。学校では、キャリア教育も充実させながら、「なりたい自分になるために努力する」という主体性のある生徒を育てていきたいと思っています。家庭でも将来どうするかといったようなお話をしてもらえるとよいかもしれません。また、学校でも日々の学習のやり方等を指導していきます。

【50分授業の復活について】

授業時間については、各学校で適切に定めることとされており、その効果や学ばせたい内容とのバランスをとって決めています。現在本校は、45 分授業を行うことで、AT の時間の確保をすることができています。AT は人間関係づくりの時間や補充学習的な時間として使っています。人間関係や学力不足に悩む生徒たちが多いことを考えると、授業時間を5分削ってでも、生徒たちに人間関係づくりのスキルや基礎的学力を身に付けさせることが必要だと考えています。「ATの時間がうまく使えていないのでは」というご指摘もいただきました。学校全体で AT の時間が充実するように工夫・改善をしていきたいと思ひます。

部活動の活動時間や日数を増やすことはできないか。新しい部活動はできないか。

【部活動運営について】

来年度は平日3日、土曜日が月に1回となります。今後も部活動の時間や日数を増やすことは難しいので、限られた時間の中で効果的かつ効率のよい運営方法を模索していきます。もっと活動がしたいという生徒につきましては、家庭において自主的にトレーニングを積み重ねたり、地域のスポーツクラブ等に入る等の選択肢が考えられます。また、新しい部活動を設置する際には、現状の部活動を削減すること必要となりますが検討の余地はあるかと思ひます。

中高一貫、小中連携のレクリエーションや異学年交流などの活動があってもよいかと思う。

【小中高の連携について】

連携型中高一貫教育の強みを生かし、授業だけでなく行事も交流してきました。今後も高校側と協議し、生徒同士の交流を通してキャリア教育やふるさと学習などをすすめて、6年間で実りのある学びにしたいと考えています。また、小中連携も生徒の心を育てる上では有効な手段かと思ひます。今後の検討材料とさせていただきます。

教員の不適切な対応をなくすよう取り組みをしてほしい。

【教員の資質向上について】

教員は、毎月不祥事チェックや現職研修を行って、自らの行動を振り返り適切な対応ができるようにしています。また、生徒・保護者などから、ご指摘があった場合には、事実関係を確認し、適切な指導となるよう対象教員と面談を行いながら、改善していくようにしています。

いじめをなくすような取り組み、生徒の思いを組んだ対応、スクールカウンセラーの活用を考えてほしい。カバンの色指定など、校則の見直しも進めてほしい。

【生徒指導について】

生徒一人一人が、「何をするべきか」「どうになりたいか」という問題意識や思いをもち、主体的に行動ができるようになることを願って支援・指導をしています。また、全学年の生徒を全教員で支援することを心掛け、トラブルが起きたときには、すぐに情報を共有して、複数の教員で対応策を検討し、生徒の思いや事情を十分に受け止めたうえで、支援・指導に当たるようにしています。

保護者の皆様にもそうした視点で生徒の成長を見守っていただき、学校と連携した支援・指導をしていただければ幸いです。

いじめをなくすためには、人間関係づくりが大切だと考えています。R6 年度は、人間関係づくりに焦点を当て全職員で研修を深めることを予定しています。

教育相談活動については、年度途中より、スクールカウンセラーに限らず、生徒が話しやすい先生に話せるように、誰に相談したいかも選べるようにしました。今後も、スクールカウンセラーについて生徒に情宣するとともに学校全体で相談しやすい体制を心掛けていきたいと思っています。

行事や校則の検討については、生徒の主体性を伸ばす絶好の機会と考えています。全てを親や先生が直してあげるということではなく、生徒たちが問題に気付き、考え、判断するという過程を大切にしていきたいと考えています。生徒主体の新しい取り組みは失敗することも至らぬところもありますが、その経験の積み重ねが生徒の主体性を伸ばしていくことにつながると考えています。

【最後に】

この他にも、災害時の連絡体制をもっとしっかりしてほしい、子供たちが大喜びするイベントができるといい。行事等での保護者の撮影マナーなどに対する明確な指示があるとよい。F ステを DVD にして販売してほしい。大人が都合の良ように問題を片づけないこと。ドリームの会にもっと参加する子が増えるといいのに。などのご意見をいただきました。ありがとうございます！

また、「福伸」の校長先生のお話を楽しみにしていますとか、先生たちの笑顔が子供たちを一番元気にしてくれるので、プライベートも大切にしてくださいなど、先生たちが元気になる言葉もいただきました。多くのご意見等、ありがとうございました。来年度もよろしく願ひします！みんなで素敵福江中学校をつくっていきましょう！